

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価

## 2019年度 報告書

大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価 2019年度 報告書  
目次

巻頭言

第1章 大阪医科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・・・・1

1. 大阪医科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）
2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け
3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・・・・5

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果
2. 本学部の強みおよび課題

第3章 次年度に向けた課題・・・・・・・・・・7

資料

1. 大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・8
2. 2019年度 大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・・・

10

3. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・・・・11

根拠資料一覧 大項目1. ディプロマポリシー

大項目2. 環境

大項目3. 過程

大項目4. 成果

大項目5. 改善

4. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・・・・17

委員評価一覧 大項目1. ディプロマポリシー

大項目2. 環境

大項目3. 過程

大項目4. 成果

大項目5. 改善

## 巻頭言

カリキュラムについては看護学教育センターの中にカリキュラム委員会があり、学生委員も加わって、カリキュラムの計画、実施、評価、再編成という連続的で発展的な作業に取り組んでいます。一方で近年、カリキュラムの評価・改善に関しては、内部評価（自己点検）とともに、第三者の視点を入れた外部評価の重要性が指摘されるようになりました。

2019年4月、看護学部のカリキュラム評価委員会が発足しました。委員は看護学部教員3名、学務部職員1名の他、外部委員として医学部教員1名、他大学看護系教員1名、自治体に所属する専門家1名、また学生委員として学年の異なる2名の学生に委員を委嘱しました（巻末資料参照）。

5月の看護学部教授会にて、カリキュラム評価委員会は“課程レベル（学部レベル）のPDCAサイクルを確認する”という位置づけであることが明示されました。

この決定を受け委員会では、評価項目の検討に入りました。評価の大項目は①ディプロマポリシー、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤改善とし、それぞれの大項目の下に中項目、小項目を設け、それらの評価項目を評価できる資料を決定していきました。

目標を設定し、実行計画を立案する（Plan）、その計画を実行に移す（Do）、実行した内容の検証を行う（Check）、そして、その検証結果を受け、今後どのような対策や改善を行っていくべきかを検討する（Action）。このPDCAサイクルがそれぞれの評価項目において連続的に回っているかどうかを、内部、外部の両方の視点から合同で点検・評価することが本年度のカリキュラム評価委員会の役割となりました。

しかし、カリキュラムをめぐる情報がたくさんある中、外部委員や学生委員にとって評価がし辛いようであれば、カリキュラム評価委員会として十分なはたらきが発揮できなくなるおそれがあります。評価をやり易いものにするということについても委員会の課題でした。俯瞰してPDCAサイクルが回っているかを、三段階くらいで評価ができるものにしてはどうか等、意見を出し合いました。このようにしてカリキュラム評価の方法が固まっていきました。

この1年間の委員会の活動をまとめたこの報告書は3つの章から構成されています。

第1章では大阪医科大学の看護学教育カリキュラムの評価方法の策定について記しています。具体的には、1. 大阪医科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）、2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け、そして、3. 看護学教育カリキュラムの評価方法（①評価項目と評価基準、②評価の方法、③評価結果のフィードバック）についてです。また第2章では、2018年度を対象として看護学部看護学科のカリキュラム評価の結果をまとめています。2019年12月から2020年1月にかけて、外部委員、学生委員、学内委員がそれぞれの評価項目に対する評価を行い、2月4日の第2回カリキュラム評価委員会にて委員が集まり、その結果を共有しつつ、意見の交換を行いました。この章はカリキュラム評価の結果とその総括です。最終章では、これまでの委員会の活動を振り返ることで見えてきた今後の課題を2つの観点から検討しています。

最後になりましたが、本学看護学部のカリキュラム評価委員会の発足およびその後の活動に対して、ご理解とご協力を賜った関係各位に厚くお礼申し上げます。

2020年3月

大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会

# 第 1 章

## 第1章 大阪医科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

### 1. 大阪医科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

本学の使命は、寄附行為の目的に基づき、人類の健康と福祉の維持向上に役立ち、国際的視野を持つ最良の医療専門職、教育者、あるいは研究者として活躍する人材の育成である（学則第1条）。また、本学の教育目的は、豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、及び地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践することである（学則第5条）。

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価している。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行っている。本学では、アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）」を確立させ、不断の教育改善に取り組んでいるところである。

以下に、機関レベル（大学レベル）および看護学部看護学科のアセスメントポリシーを示す。

表1. 大阪医科大学 機関レベル（大学レベル）のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーを満たす人材か</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに則った学修が進められているか</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシー（以下、DP）を満たす人材になったか</li> <li>・DPの妥当性</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>
機関レベル （大学レベル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・学勢調査</li> <li>・正課外活動状況（短期留学、クラブ、ボランティア等）</li> <li>・ポートフォリオ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[卒業時]</li> <li>卒業時アンケート（学勢調査）</li> <li>国家試験合格率（医・保・助・看）</li> <li>研修先一覧（マッチング結果：医学部）</li> <li>就職率／進学率（看護学部）</li> <li>[卒業後]</li> <li>卒業生アンケート</li> <li>卒業生就職先／勤務先へのアンケート</li> </ul>

表2. 大阪医科大学 看護学部看護学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修得単位数</li> <li>・GPA</li> <li>・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査）</li> <li>・教員によるカリキュラム評価</li> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・保健師、助産師コース希望者数</li> <li>・外部試験結果（国家試験模試等）</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業要件：修得単位数、卒業演習評価</li> <li>・資格取得：国家試験合格率</li> <li>・GPA</li> <li>・休学率、退学率</li> <li>・就職率、進学率</li> <li>・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査）</li> <li>・卒業時到達目標の自己評価</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目評価（講義・演習・実習）</li> <li>・実習ポートフォリオ</li> <li>・授業評価（学生）</li> <li>・授業改善報告書（教員）</li> <li>・ピアレビュー報告書（授業見学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目成績（講義・演習・実習）</li> </ul>

[https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/assessment\\_policy.html](https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/assessment_policy.html)

## 2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組（内部質保証）のひとつとして2019年4月1日に設置された。

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を目指すものである。

本委員会は、「課程レベル（学部レベル）のPDCAサイクルをモニタリングする」という位置付けにある。PDCAサイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計するPlan（企画・立案）、計画の実施とその効果を測定するDo（実施）、結果を分析し評価するCheck（評価）、プロセスの継続改善に必要な措置を行うAction（検証・改善）の4段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである。4段階のステップとスパイラルを積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる。

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

本委員会の運営要領は資料 1、2019 年度委員名簿は資料 2 に示す。

### 3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

#### 1) 評価項目と評価基準

本学看護学部看護学科のアセスメントポリシーおよび本委員会の目的・位置付けに基づき、評価項目が設定された。評価項目は、大・中・小項目で構成され、大項目は①本学看護学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤改善である。中項目は、大項目について 2～5 の項目、小項目は中項目をどのような点で評価するかを示す項目である。評価するための根拠となる資料をそれぞれ明示した。なお、評価項目で用いる「カリキュラム」とは、各科目および科目全体を指す。

評価基準は、A：十分に実施されている（解釈：PDCA がなされている）、B：概ね実施されている（解釈：一部実施にむけた検討がなされている）、C：大幅な見直し、改善が必要（解釈：PDCA がなされていない）である。

評価項目および評価基準は、本学看護学部教授会ならびに本委員会で協議し、決定された。表 3 に示す。

#### 2) 評価の方法

評価は、根拠資料（資料 3-1～3-5）ごとに示された「P」・「D」・「C」・「A」の内容から、評価基準に沿って評価し、コメントがある場合には記載がなされた。さらに、中項目ごとに総合評価が行われた。

学外委員（第 2～4 号委員）および学生委員（第 6 号委員）は各々、評価し、学内委員（第 1 号および第 5 号委員）は意見を集約し、評価を行った。

各委員による評価は、資料 4-1～4-5 のとおりである。資料 4 での「総合評価案」、「評価案」は学内委員の評価である。この資料に基づき、本委員会で協議し、評価結果をまとめた。

#### 3) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は、運営要領の第 5 条 4 に基づき、委員長が本学看護学部長に報告した。また、本学看護学部教授会ならびに本学看護学部学科会議にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。

本委員会の全ての委員には報告書が送付された。

さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載し、その旨は本学看護学部学生に周知した。

表3. 大阪医科大学看護学教育カリキュラム 課程レベル (学部レベル) の評価項目

大項目	中項目	小項目	資料	評価	コメント
1. ディプロマポリシー	①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑤との対応が示されている DP①～⑤の能力を有しているか学生が自己評価している DP①～⑤の能力を有しているか外部指標を用いて評価している	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業演習評価</li> <li>累積GPA (累積GPA・単年GPA)</li> <li>休学率、退学率</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>資格取得：国試合格率</li> <li>進学率・就職率</li> <li>学勢調査</li> <li>正課外活動ポートフォリオ</li> </ul>		
	②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探索し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる				
	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる				
	④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる				
	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる				
2. 環境	①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学勢調査</li> <li>学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)</li> <li>常勤教員数</li> <li>文部科学省調査 指定 (認定) 学校概況」等報告書</li> <li>設備</li> </ul>		
		学内に看護実践のセルフトレーニングができる部屋がある			
	②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある			
		学内に文献検索、統計処理ができるPCがある			
		学内のいずれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる			
	③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されている			
		学生数に対して、臨地実習指導者が確保されている			
	④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある			
		学生が自己学習できる部屋がある			
		学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある			
学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある					
3. 過程	①カリキュラム*は計画通り実施されている (*各科目および科目全体を指す)	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>カリキュラムマップ</li> <li>カリキュラムツリー</li> <li>修得単位数</li> <li>実習ポートフォリオ</li> <li>授業評価</li> <li>進級率、休学率、退学率</li> <li>保健師、助産師コース希望者数</li> <li>教員によるカリキュラム評価</li> <li>GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA)</li> <li>授業改善報告書</li> <li>ピアレビュー報告書</li> <li>FD実施状況</li> <li>実習連絡協議会の報告資料</li> </ul>		
		教員によるカリキュラムの振り返りを行っている			
	②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている			
		各科目を通してDP達成できるよう配置されている			
	③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている			
		FDを定期的に実施している			
		授業評価に対する改善報告書を学生に返答している			
		教員間のピアレビューを実施している			
		臨地実習指導者に実習のフィードバックを行っている			
	4. 成果	①カリキュラムの目標を達成している		看護技術経験表評価調査を実施・評価している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>修得単位数</li> <li>卒業先評価</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>ジェネリックスキルテスト</li> <li>卒業生就職先アンケート実施</li> <li>看護技術経験表評価調査</li> <li>資格取得：国試合格率</li> </ul>
②社会人基礎力を身につけている		卒業生就職先アンケートを実施・評価している			
③雇用者は卒業生の能力に満足している		ジェネリックスキルテストを実施・評価している			
5. 改善	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議議事録</li> <li>3センター活動報告</li> <li>卒業生就職先評価調査</li> <li>学生・教員懇談会 (学生支援生活センター年報)</li> </ul>		
	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある			

評価 A…十分に実施されている (解釈: PDCAがなされている)  
 B…概ね実施されている (解釈: 一部実施に向けた検討がなされている)  
 C…大幅な見直し、改善が必要 (解釈: PDCAがなされていない)



## 第 2 章

## 第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括

### 1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果

根拠資料一覧は資料3-1～3-5に示した。各委員より集約した評価およびコメントの一覧表は資料4-1～4-5のとおりである。以下には大項目ごとに結果の概要を示す。

#### 1) 大項目1. ディプロマポリシー

##### (1) PDCA サイクル

- ・「卒業演習評価」, 「卒業時到達目標の自己評価」については, 委員全員が A と評価していた。
- ・「学勢調査」, 「正課外活動ポートフォリオ」については, 評価案は B であり, B または C と評価している委員が多かった。
- ・その他の項目については, 半数以上が評価案と同じ評価をしていた。
- ・「学勢調査」については, 公開資料がないこと, 「正課外活動ポートフォリオ」については現在検討段階であるため評価できないことが指摘された。

##### (2) 総合評価

- ・全ての中項目において半数以上の委員が A と評価していた。結果, 「⑤自らのキャリア形成を見据えて, 向上心を持って自己研鑽し続けることができる」において, 概ね整備されており, その他は十分に実施されているという結果であった。

#### 2) 大項目2. 環境

##### (1) PDCA サイクル

- ・「学勢調査」については, 大項目1. と同様にほとんどの委員が B と評価していた。
- ・その他の項目については, ほとんどの委員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・ワーキングの総合評価案とほぼ同様の結果であった。結果, 「①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている」, 「④教育・実習に関する設備が整っている」において, 評価が概ね整備されており, その他は十分に実施されているという結果であった。

#### 3) 大項目3. 過程

##### (1) PDCA サイクル

- ・「授業改善報告書」以外, 半数以上の委員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・ワーキングの総合評価案とほぼ同様の結果であった。結果, 全ての中項目において, 十分に実施されているという結果であった。

#### 4) 大項目4. 成果

##### (1) PDCA サイクル

- ・「卒業時到達目標の自己評価」, 「資格取得：国試合格率の HP 公開」については, 委員全員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・ワーキングの総合評価案とほぼ同様の結果であった。結果、全ての中項目において、十分に実施されているという結果であった。

## 5) 大項目 5. 改善

### (1) PDCA サイクル

- ・全ての項目において半数以上が A と評価していた。

### (2) 総合評価

- ・ワーキングの総合評価案とほぼ同様の結果であった。結果、「①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている」において十分に整備されており、「②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次の Plan がたてられている」において概ね整備されているという結果であった。

## 2. 本学部の強みおよび課題

### 1) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の強み

学内委員と学外委員および学生委員ともに「A」と評価している項目および評価は下記の通りであった。

- ・大項目 1. DP 中項目③専門的な知識・技術を身につけ、看護を実践できる
- ・大項目 2. 環境 中項目②ICT の環境が整っている  
中項目③カリキュラムを運用する体制が整っている
- ・大項目 3. 過程 中項目③教授活動の質の保証を示す根拠がある

以上より、知識技術の習得や看護実践の教授、学習環境の整備については PDCA が回っており、常に振り返り、改善にむけて動いていると評価できる。

### 2) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の課題

学内委員と学外委員および学生委員との評価で乖離のあった項目および課題は下記の通りであった。

- ・大項目 1. DP および大項目 2. 環境

学勢調査の公開に関して不十分であった。PDCA の仕組みとして、大学全体で実施や公開にむけて連携を深めることが重要である。

- ・大項目 5. 改善 中項目①学生、教職員が目的達成のための課題や問題点を知っているか  
以上より、教職員は共有する場・仕組みがあり知っているが、学生がどこまで知っているかが課題である。具体的には、学生に建学の精神やディプロマポリシーやカリキュラムポリシーなどの教育目標を積極的に周知するために、オリエンテーション内だけでなくシラバスへの掲載などを行う必要性があり学内にフィードバックすることで合意した。現状として、学生と教員の懇談会は、各学年の総代・副総代の参加であるが、今後、学生をどのように巻き込んでいくかが課題である。

# 第 3 章

### 第3章 次年度に向けた課題

今年度は、当委員会が立ち上がった初年度ということもあり、試行錯誤を繰り返し運営を行った。その中から見えてきた課題について2点記す。

1点目は委員構成についてである。

『大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領』第3条（組織）（6）に看護学部生（第2学年学生代表1名、第4学年学生代表1名）との記載があるが、学生がカリキュラム評価委員会の委員としてどのような役割を担うのかについて十分なレクチャーができたとは言い難い状況であり、学生委員として十分に機能したかどうか疑問が残るため、次年度以降は事前にカリキュラム評価委員会の趣旨や学生委員の役割について理解してもらうことが必要である。

また、学生委員は授業や実習あるいは国家試験対策が優先となるため委員会や学内ワーキングについて参加することができなかったため、日程についても再考が必要である。

2点目は評価のサイクルについてである。

カリキュラムの評価は大きくはディプロマポリシー、環境、過程、成果、改善の5項目から構成されているが、その中で環境の評価項目であるICT状況、グループ演習室、セルフトレーニング、PC台数等設備系に関する評価項目やカリキュラムマップ等、1年間でPDCAを回すことが容易でない項目もあったため、外部委員から単年度の評価だけでなく複数年度にわたる評価を取り入れてもよいのではないかとの意見があり、次年度の検討課題とする。

# 資料

## 大阪医科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成31年4月1日施行)

### (目的)

**第1条** この運営要領は、看護学部長規則第2条に基づき、大阪医科大学看護学部に、大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その必要な事項を定める。

### (設置)

**第2条** 大阪医科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

### (組織)

**第3条** 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 看護学部教員3名
- (2) 医学部教員1名
- (3) 他大学看護系教員1名
- (4) 自治体、商工会議所、企業等からの委員1名
- (5) 看護学事務課1名
- (6) 看護学部学生（第2学年生代表1名、第4学年生代表1名）

2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

### (審議事項)

**第4条** 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関すること。
- (2) その他、カリキュラムに関すること。
- (3) その他、学部長の諮問する事項

### (委員長)

**第5条** 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告するものとする。

### (任期)

**第6条** 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は1年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

**第7条** 委員会は、原則として年に2回以上開催する。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。
- 3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

**第8条** この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

**附 則**

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。



大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	小項目	総合評価案	総合評価
①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑤との対応が示されている	A	
②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる		A	
③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる		A	
④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる		A	
⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる		B	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・卒業演習評価	○	2018年度年報	21	3. 4年次選択の方法の検討	23	3. 4年次選択の方法の検討	29-30	2. 3)4年次選択の方法の検討(卒業研究、保健師及び助産師の選抜)卒業演習発表については、合同発表の実施の検討や、下級生が参加しやすい日時の設定が必要。次年度も学事予定等を踏まえたスケジュールをたて、実施する	同左		A			
・GPA (累積GPA・単年GPA)	○	2018年度年報	21	4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導	24	4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPAの導入・活用)	29	2. 1) (8) 今後もGPA制度と併せて妥当な評価制度となっているかを確認し、必要に応じた見直しを行っている	30	2. GPA2未満の学生への学修指導の強化	A			
	○	HP			*1	2018年度看護学部 学年ごとの単年GPA分布を公開している								
・休学率、退学率	△	休学率：公開資料なし(正式な公開資料はないが、看護学事務課が管理している)									A	休学者、退学者は教授会で随時、報告されている。教員間でも共有されているため評価をAとした		
	○	退学率：2018年度年報			14	4. 学生在籍数に退学者数が明記されている								
	△	教授会議事録：公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)				休学・退学した学生に関して教授会で共有されている								
・卒業時到達目標の自己評価	○	2018年度年報	21	2. 卒業時到達目標に関すること	22	2. 卒業時到達目標に関すること 4年次4月と1月に卒業時到達度表の自己評価を実施し、最終学年における年間の到達度について比較検討を行った。 (※評価項目は文部科学省から出されている。「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」1群：ヒューマンケアの基本に関する実践報告～V群：専門職者として研鑽し続ける基本能力)	27	1. 2) 4月の到達度はやや低いものの1月では例年の自己評価と同レベルまで上昇していた	29	次年度は評価方法について見直したうえで実施予定である	A	次年度の評価方法の見直しとは「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの学修目標」を評価ツールとして、本学DPと関連させ一部項目を抽出した「ディプロマポリシーに基づく卒業時到達目標の自己評価」を実施している(2019年2月)		
・資格取得：国試合格率	○	HP			*2	HP内に合格率が明記					A			
	○	2018年度年報	46	1～7. 全員合格を目指した国家試験対策指導	46	2～5. 模擬試験、対策講座、低学力者対策、学生評価と教員の学習指導	47	看護師、保健師、助産師国家試験の全員合格	47	成績不良学生に連絡なしの対策講座欠席率が高く対策が必要である				
・進学率・就職率	○	HP			*3	就職者数、進学者数が明記されており、主な就職先も明記		就職・進路全員決定			A			
	○	2018年度年報	43	1～9. 就職や進路の支援	43	1～9. 就職情報提供、就職ガイダンス、履歴書添削セミナー、卒業生と在校生の交流会の開催、就職先の管理者対象アンケート調査、人事担当者との対応	44-45	就職活動の準備、心構えの周知が図れた。低学年は就職活動の行動目標が明確になった	45	採用試験の時期が早まっているため低学年からキャリア形成を図る				
・学勢調査	○	HP			*4	2018年度学勢調査の一部(学修実態)のみ掲載されており、その他はパナーのみである					B	2018年度学勢調査「大学生生活全般の満足度」「課外活動」「学内施設利用状況と満足度」などの結果が公表されておらず、中項目⑤の判断材料が不足している		
・正課外活動ポートフォリオ	△	2018年度第11回学生生活支援センター議事録：公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)				左記議事録にて報告され、2019年度第11回学生生活支援センター会議内で実施にむけた検討がされている					B			

\* 「累積GPA」は「GPA (累積GPA・単年GPA)」に変更

HP資料：HP内のURL

\*1 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/gpa2018.html>

\*2 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/exam.html>

\*3 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/nursing/support.html>

\*4 [https://www.osaka-med.ac.jp/deps/ir-public/data/assessment/h30\\_kango.html](https://www.osaka-med.ac.jp/deps/ir-public/data/assessment/h30_kango.html)

大項目 2. 環境

中項目	小項目	総合評価	総合評価
①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	B	
	学内に看護実践のセルフトレーニングができる部屋がある		
②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある	A	
	学内に文献検索、統計処理ができるPCがある 学内のいずれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる		
③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されている	A	
	学生数に対して、臨床実習指導者数が確保されている		
④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある	B	
	学生が自己学習できる部屋がある		
	学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある		
	学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある		

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・学勢調査	○	HP			*4	2018年度学勢調査の一部(学修実態)のみ掲載されており「学内施設利用状況と満足度」などはパナーのみである					B	2018年度学勢調査「学内施設利用状況と満足度」の結果が公表されておらず、中項目①④については、学生自身が学習環境をどのように評価しているか等の判断材料が不足している		
・学内ICT状況 (キャンバスマップ、各階平面図)	○	看護学部学生生活ガイド2018年度			24	キャンバスマップ(構内建物案内図)で図書館棟の場所が明記されている					A			
	△	HP			*5	同上								
・常勤教員数	○	2018年度年報			2-3	教員構成及び教員数、非常勤教員や実習補助員の採用について明記されている					A			
・文部科学省調査「指定(認定)学校概況」等報告書	△	毎年5月に文部科学省に提出:公開資料なし(看護学事務課が保管している)				実習施設における実習指導者数は、報告6:実習施設等の概要に明記されている					A			
・設備 ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム ウ) PC台数 エ) 文献検索、統計処理が可能なPC オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続 カ) 図書館 キ) 自学自習室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルーム	○	看護学部学生生活ガイド2018年度			9-12	ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム エ) 文献検索、統計処理が可能なPC キ) 自学自習室 ク) 実習室 について、利用時間や利用手続き等が明記されている オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続は、看護学部棟のすべての階で利用可能であることが明記されている						エ) 文献検索、統計処理が可能なPCはそれぞれ5台であったが、2019年度後期から全端末で利用可能となり、学生に周知済(2019年9月)		
	○	2018年度年報	43	ク) キャリアサポートの支援について学生ガイドに掲載	44	ウ) PC台数は、ノート型PC95台と明記されている					A	キャリアサポートおよびサポートルームの利用方法等に関して、学生生活ガイド2019年度の8-9項に記載されている		
	○	HP			*6	カ) 図書館は、利用時間や利用方法が掲載されており、オンラインでの文献複写申込なども整備されている								
	△	HP			*7	ア) グループ演習室は、学生グループが自学自習できる場所として掲載								
		各階平面図:公開資料なし(2016年度までは公開していたが防犯上等の理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)				ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニング室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルームと、情報処理室の場所が明記されている								

\*「設備ア)〜ケ)」を追加

HP資料: HP内のURL

\*4 [https://www.osaka-med.ac.jp/deps/ir-public/data/assessment/h30\\_kango.html](https://www.osaka-med.ac.jp/deps/ir-public/data/assessment/h30_kango.html)

\*5 <https://www.osaka-med.ac.jp/about/campusmap.html>

\*6 <https://www.osaka-med.ac.jp/tosho/>

\*7 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/nursing/rooms.html>

資料3-3. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 3. 過程

中項目	小項目	総合評価案	総合評価
①カリキュラム*は計画通り実施されている（*各科目および科目全体を指す）	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	A	
	教員によるカリキュラムの振り返りを行っている		
②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている	A	
	各科目を通してDP達成できるよう配置されている		
③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている	A	
	FDを定期的実施している		
	授業評価に対する改善報告書を学生に返答している		
	教員間のピアレビューを実施している		
	臨地実習指導者に実習のフィードバックを行っている		

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・各科目評価	○	2018年度年報			61-70	各領域において各科目の実施・評価等を行っている	61-70	同左	61-70	同左	A			
・カリキュラムマップ	○	HP			*8	4年間のカリキュラムの流れが明記されている					A	教育課程の系統性、順次性、水準を明らかにし、学生の履修計画、学修行動の手助けとなるように、科目ナンバリング制度を導入（2020年度開始）にむけた準備が行われている		
・カリキュラムツリー	○	HP			*9	ディプロマポリシー毎に教育課程の内容が明記されている					A			
・修得単位数	○	2018年度年報			55-60	授業科目一覧					A			
	○	履修のてびき			29	卒業要件・取得資格					A			
・実習ポートフォリオ	○	2018年度年報	21	1. ⑥実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）	22	1. 6) Webシステムであるユニパのマイステップを活用した運営方法と書式を検討した	27	1. 6) (6) 12月のFDを経て実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストを作成、2019年度2年、3年、4年で試行する予定となった			A	2019年度運用開始		
・授業評価	○	2018年度年報	21	1. ②授業・実習評価に関する事項	21-22	1. 2) 授業評価を後期より紙媒体からスマートフォンによる評価に変更した。評価をもとに教員が改善報告書を作成し学生に公開した	27	1. 1) (2) 後期より紙媒体からスマートフォンに評価方法を変更した結果、平均回収率が33%→67%へと上昇した	29	2. 1) (2) 定着はしていないため教員や学生に頻繁にアナウンスをして促す必要がある。改善報告書に記載された内容が履行されたか各領域で自己点検をする必要がある	A			
	○	HP			*10 *11	2018年度授業評価結果と実習評価結果を公開している					A			
・進級率、休学率、退学率	△	進級率、休学率：公開資料なし（正式な公開資料はないが、看護学事務課が管理している）									A	進級率、休学者、退学者は教授会で随時、報告されている。教員間でも共有されているため評価をAとした		
	○	退学率：2018年度年報			14	4. 学生在籍数に退学者数が明記されている					A			
	△	教授会議事録：公開資料なし（学内教職員のみ閲覧可能）									A			
・保健師、助産師コース希望者数	○	2018年度年報	21	3. 4年次選択の方法の検討	23-24	3. 2) (1) 保健師選抜、(2) 助産師選抜により、保健師35名、助産師6名選抜した					A			

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・教員によるカリキュラム評価	○	2018年度年報	50	3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施	50			1. 2) (3) カリキュラム全体として「科目の大分類」「科目の小分類」「科目配置」「科目の順序性」は概ね適切であるとの回答を得られたが、「科目間の重複」「不足科目」「教室の数や広さ」があまり適切でないという意見が多かった	51	2. 2) (3) カリキュラム評価に基づいた検討を行い、結果を看護学部教員にフィードバックする(看護学部教授会にて報告)	A			
・GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA)	△	2018年度第11回看護学教育センター会議議事録:公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)	4	P.4 19. GPAで示される特徴							A			
	○	HP			*1	2018年度看護学部 学年ごとの単年GPA分布を公開している								
	○	2018年度年報	21	4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPAの活用)	24	1. 4) 学生自身が主体的に学修管理に活用できるようにすることが重要であるため、意識づけを行うなど対策の検討も必要である	2. 1) (8) 今後もGPA制度と併せて適切な評価制度となっているかを確認し、必要に応じた見直しを行っている	29	2. GPA2未満の学生への学修指導の強化	30				
・授業改善報告書	△	2018年度第9回看護学教育センター会議議事録:公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)				P.4 4)に教員による授業改善報告書に実施の旨が記載されている					B	2019年度から実施され、学生に公開されている		
・ピアレビュー報告書	○	2018年度年報	21	7. 公開授業(授業見学)に関する事項	25	7. 2018年度前期・後期授業について、見学方法等教員にメール送信した	28	1. 7) 前期11名、後期8名の参加があった。40%の参加率であったため、さらなる増加が課題である。2018年度は開始が6月であったが、2019年度は4月年度初めから会誌可能である。准教授以下の参加率が高かったため、ニーズもあることがうかがえる	30	2. 7) 学部全体として若手教員が授業見学に参加できるよう引き続き配慮する。非常勤の講義も理解が得られた場合拡大していく	A			
・FD実施状況	○	21018年度年報	16	5. 国際交流講演会及びFD講演会の企画・開催	18	4. 1) FD講演会の開催を教員・大学院生・附属病院スタッフ向けに行った					A			
	○	2018年度年報	21	6. FD企画と実施	24-25	6. 教員および院生の教育実践力を高めるFD企画において、1)教育方法に関する学内交流会2つ(2019年度シラバス記載のポイントと実習ポートフォリオ、看護学部におけるアクティブ・ラーニングの推進-教育実践例の共有と今後のあり方)、2)教育講演会2つ(アクティブラーニングの評価法、アセスメントポリシーの基本)が実施された	28	1. 6) 教育講演会「アクティブ・ラーニングの評価法」において、講演後のアンケート(回収率76%)で、94%が「今後の教育等の役に立つ機会となった」と回答した。「アセスメントポリシーの基本」において、アンケート(回収率75%)で94%が「今後の教育等の役に立つ機械となった」と回答した	30	2. 6) 講演会のテーマは出席対象者のニーズや大学に求められていること等から検討していく				
・実習連絡協議会の報告資料	○	2018年度年報	37	1. 実習連絡協議会の企画・運営	37	2. 6月6日に実習連絡協議会を開催し、各領域より本年度の実習概要に関する説明等を行った。参加者は計49名(看護部29名、外部施設20名)であった					A	実習連絡協議会を開催し(1回/年)、各領域の実習評価報告書が臨地実習指導者に配布および説明がなされている。実習連絡協議会後は、各領域に分かれ、臨地実習指導者と実習の振り返りや意見交換等を行っている。公衆衛生看護学領域は実習施設が広域的に複数に渡るため、各実習施設ごとに行っている		

\*「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」を追加、「学期GPA」は「GPA(全体推移・単年GPA・個別GPA)」に変更

HP資料: HP内のURL

\*8 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/curriculum.html>

\*9 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/tpv6n4000000mg8-att/f2pjpg000000cbz.pdf>

\*10 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjpg0000006s8k.html>

\*11 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjpg0000006rbq.html>

\*1 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/gpa2018.html>

資料3-4. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 4. 成果

中項目	小項目	総合評価案	総合評価
①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	A	
②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価している	A	
③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジェネリックスキルテストを実施・評価している	A	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・各科目評価	○	2018年度年報			61-70	各領域において各科目の実施・評価等を行っている。	61-70	同左	61-70	同左	A			
・修得単位数	○	2018年度年報			55-60	授業科目一覧					A			
	○	履修のてびき			29	卒業要件・取得資格					A			
・卒業先評価	○	2018年度年報	43	4. 就職活動及び内定状況の把握	43	4. 就業調査票により内定状況把握し、2018年2月の学科会議で報告した					A			
	○	HP			*3	HP内に就職状況、看護職職種別就職者数、主な就職先が明記されている					A			
・卒業時到達目標の自己評価	○	2018年度年報	21	2. 卒業時到達目標に関すること	22	2. 卒業時到達目標に関すること （*評価項目は文部科学省から出されている、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」I群：ヒューマンケアの基本に関する実践報告～V群：専門職者として研鑽し続ける基本能力）	27	1. 2) 4月の到達度はやや低いものの1月では例年の自己評価と同レベルまで上昇していた	29	次年度は評価方法について見直したうえで実施予定である	A	次年度の評価方法の見直しとは「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの学修目標」を評価ツールとして、本学DPと関連させ一部項目を抽出した「ディプロマポリシーに基づく卒業時到達目標の自己評価」を実施している（2019年2月）		
・ジェネリックスキルテスト	○	2018年度年報	50	1. アセスメント・ポリシー策定に関すること	50	1. アセスメントポリシーに関することとしてジェネリックスキルテストを試行した			52	2. 1) (4) テスト結果の解析、応用方法の方針作成、2019年度以降の予算化	A	2019. 4. 17結果を学科会議で報告されている		
・卒業生就職先アンケート調査	○	2018年度年報	43	6. 卒業生に関するアンケート調査	44	6. 卒業生に関するアンケート調査の実施 93施設に送付、42施設（回収率45.2%）より回答があった	44	1. 90%以上が今後も採用したいと回答があった。結果はキャリアサポートルームに掲示した。ガイダンス等でも掲示し、学生や教員間での就職活動の情報共有を図った			A			
・看護技術経験表評価調査	○	2018年度年報	21	2. 卒業時到達目標に関すること	22	1. 6) Webシステムであるユニバのマイステップを活用した運営方法と書式を検討した	27	1. 6) (6) 12月のFDを経て実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストを作成、2019年度2年、3年、4年で試行する予定となった			A	Webシステムで技術経験表が確認できるよう作成済み 2019年度運用開始		
	○	HP			*2	HP内に合格率が明記					A			
・資格取得：国試合格率	○	2018年度年報	46	1～7. 全員合格を目指した国家試験対策指導	46	2～5. 模擬試験、対策講座、低学力者対策、学生評価と教員の学習指導	47	看護師、保健師、助産師国家試験の全員合格	47	成績不良学生に連絡なしの対策講座 欠席率が高く対策が必要である	A			

\* 「卒業生就職先アンケート実施」「卒業生就職先評価調査」は「卒業生就職先アンケート調査」に統合

HP資料：HP内のURL

\*3 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/nursing/support.html>

\*2 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/exam.html>

資料3-5. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 5. 改善

中項目	小項目	総合評価案	総合評価
①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	A	
②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある	B	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	評価案	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・学科会議議事録	△	2018年度第1～11回看護学部学科会議議事要旨：公開資料なし									A			
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	○	2018年度年報（ただし2018年度各センター議事録：公開資料なし、学内教職員のみ閲覧可能）									A			
・卒業生就職先評価調査	○	2018年度年報	43	6. 卒業生に関するアンケート調査	44	6. 就職先の管理者対象アンケート調査の実施	44	90%以上が今後も採用したいと回答があり、就職先が何を望んでいるかはキャリアサポートルームに掲示した			B	卒業生への調査は1回/3年の実施とする（2019年度第7回就職支援委員会議事録：公開資料なし） （*就職先への調査の頻度等は2019年度第8回就職支援委員会で検討予定⇒3年に1回程度と検討されたが、2/21の会議で最終決定される）		
	○	HP			*12	看護学部卒業生を対象に、在学中の教育内容やサービス等が現在の仕事に活かされているか等のアンケート調査を実施した	*12	改善を必要とすることや期待することでは、特に「教育カリキュラムの充実」「臨床・臨地との協力」「図書館の充実」が高かった						
・学生・教員懇談会（学生支援生活センター年報）	○	2018年度年報	31	1. 総代・副総代の連絡会	31～33	1. 各月の活動概要：新年度各学年総代・副総代の決定、総代連絡会実施、学生・教員懇談会の実施、学生意見への回答	35	学生との懇談会等を活用した意見交換を行っているが、縦断的な学年間の交流が不十分。学生が主体的に勉強し、快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題	35	懇親会への参加者の増加を図る運営ができるように支援する	A			

\* 「3センター（看護学部看護実践研究センター、教育センター、学生生活支援センター）活動報告」を追加

HP資料：HP内のURL

\*12 <https://www.osaka-med.ac.jp/news/nursing/v9oak0000005ubp-att/v9oak0000005udp.pdf>

資料4-1. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	総合 評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価	解釈
①	A	A	A	A	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	B: グローバルな視点について、どのようなカリキュラムがあるでしょうか。	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	A	A	A	B	A		
⑤	B	B	B	A	A	A		

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント	
・卒業演習評価	A	A	A	A	A	A	・4年次選択の学生配置方法の検討になっていますが、卒業演習評価（意見の記載あり）を中心にした方がよいと思います。	
・GPA（累積GPA・単年GPA）	A	A	A	A	B	A	・GPAの導入・活用がされており、今後の進級判定への活用が期待されます。 ・具体的な学修指導は何でしょうか。メンターでしょうか。 ・学生指導に関する記述がない。	
		A		A	C			
・休学率・退学率	A	A	B	A	C	A	・資料がないため、評価はできないが、事務課管理でよいと思います。	
			B	A	C		・教員間で共有した後、見えてきた課題に対しどのように進めていくのかプロセスが見えると良いと思う	
			B	A	C		・資料がないため、評価はできないが、教授会の共有でよいと思います。	
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	・卒業時到達目標の自己評価への参加学生数にばらつきがあるため、参加者が一定数以上になることが比較検討する上で望ましいと思います。	
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	C	A		
		A	A	A	A		・高い合格率を維持されています。	
・進学率・就職率	A	A	A	A	C	A		
		A	A	A	A		・全員が就職か進学をされています。	
・学勢調査	B	B	B	B	C	A	・学勢調査のうち、学修実態のみが公開されているが、他は項目の掲載のみであり、実施されていることは把握できませんが、資料が不足していると思います。 ・学勢調査は公開してください。 ・課外活動等は、学校パンフレットに記載されている点もある。利用状況などもスペースが確保されているという紹介が他であるのであれば、学生個人個人で利用度に差が大きいので、学修実態のみで評価が行えるのではないかと。	
・正課外活動ポートフォリオ	B		B	B	C	B	・議事録のみで資料がないため、評価はできないが、検討されていることは伺えます。	

\* 「累積GPA」は「GPA（累積GPA・単年GPA）」に変更

資料4-2. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 2. 環境

中項目	総合 評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価	解釈
①	B	B	B	B	A	B	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	B	B	B	A	C	A		

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント
・学勢調査	B	B	B	B	C	B	・学勢調査のうち、学修実態のみが公開されているが、他は項目の掲載のみであり、実施されていることは把握できませんが、資料が不足していると思います。 ・公開をお願いします。
・学内ICT状況 (キャンバスマップ、各階平面図)	A	A	A	A	C	A	
		A	A	A	C		
			A	A	C		・資料がないため、評価はできないが、防犯上非公開でよいと思います。
・常勤教員数	A	A	A	A	C	A	・専任教員に欠員に対し、非常勤教員や実習補助員を採用しているのはなぜかと思えます。
・文部科学省調査「指定（認定）学校概況」等報告書	A		A	A	C	A	・公開資料がないため、評価できないが、文科省に提出されているのであればよいと思います。
・設備 ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム ウ) PC台数 エ) 文献検索、統計処理が可能なPC オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続 カ) 図書館 キ) 自学自習室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルーム	A	A	A	A	C	A	・学生の学習のための設備が整っていると思います。
		A	A	A	C		
		A	A	A	C		・2019年度の学生生活ガイドに学年別の就職活動スケジュール等が掲載され、キャリアサポートがより明確に示されていると思います。
		A	A	A	C		・学生の学習のために利用可能な設備が整っていると思います。
		A	A	A	C		・学生生活ガイドに施設の利用について、利用時間、使用時の留意事項等が詳細に記載されていると思います。
		A	A	A	C		

\* 「設備ア）～ケ）」を追加



資料4-3. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル(学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 3. 過程

中項目	総合 評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価	解釈
①	A	A	A	A	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	・各領域の自己評価が行われています。
・カリキュラムマップ	A	A	A	B	C		・カリキュラムマップが教育目標やディプロマポリシーと整合して明示されていると思います。 ・シラバスに掲載してください。また、シラバスに学はおよび建学の精神は掲載しないのですか。
・カリキュラムツリー	A	A	A	B	C		・カリキュラムツリーがディプロマポリシーと整合して明示されていると思います。 ・シラバスに掲載してください。
・修得単位数	A	A	A	A	C		・卒業要件と取得資格が明確に記載されていると思います。
・実習ポートフォリオ	A	A	A	A	C	A	・実習委員会と教育センターが連携して実習ポートフォリオを検討されていると思います。 ・指導医による評価およびフィードバックもWEBで行われますか。
・授業評価	A	A	A	A	A	A	・授業評価の方法を変更し、回収率を上げる努力をされていると思います。
・進級率、休学率、退学率	A		A	A	C	A	・資料がないため、評価はできないが、事務課管理でよいと思います。
		A	A	A	C		
			B	A	C		・資料がないため、評価はできないが、教授会の共有でよいと思います。 ・大項目1 休学率参照

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント
・保健師、助産師コース希望者数	A	A	B	A	C	A	・保健師、助産師コースの選抜方法や人数が示されていません。 ・検討内容がわかりにくい
・教員によるカリキュラム評価	A	A	A	A	A	A	・教員によるカリキュラム評価が実施されており、回収率も高いと思います。 ・学生はカリキュラム委員会に参加しますか。
・GPA（全体推移・単年GPA・個別GPA）	A		A	A	C		・資料がないため、評価はできないが、議事録に示すでよいと思います。
		A	A	A	C	A	
		A	A	A	A	A	・GPAの導入・活用がされており、今後の進級判定への活用が期待されます。 ・具体的な学修指導は何でしょうか。メンターでしょうか。
・授業改善報告書	B		A	B	C	A	・資料がないため、評価はできないが、議事録に示すでよいと思います。 ・実施の旨が記載されているため
・ピアレビュー報告書	A	A	A	A	A	A	・授業公開によるピア・レビューが実施され、今後の拡大が期待されます。
・FD実施状況	A	A	A	A	C		・国際交流講演会やFD講演会の開催が多く、活発であると思います。
		A	A	A	A	A	・参加者が多くニーズを捉えたFD企画になっていると思います。 ・学生はFDに参加されますか。また、附属病院の職員は教員とともにFDに参加しますか。病院職員との意見交換はされますか。
・実習連絡協議会の報告資料	A	A	A	A	C	A	・実習連絡協議会の内容、時間配分など具体的な検討がされていると思います。 ・学外実習での指導および評価もWEBでのポートフォリオでしょうか。

\* 「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」を追加、「学期GPA」は「GPA（全体推移・単年GPA・個別GPA）」に変更

資料 4-4. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 4. 成果

中項目	総合 評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価	解釈
①	A	A	A	A	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	B	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	C	A	・各領域の自己評価が行われています。
・修得単位数	A	A	A	A	C	A	
		A	A	A	C	A	・卒業要件と取得資格が明確に記載されていると思います。
・卒業先評価	A	A	A	A	C	A	・就職活動および内定状況を調査し、把握されていると思います。
		A	A	A	C	A	
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	・卒業時到達目標の自己評価への参加学生数にばらつきがあるため、参加者が一定数以上になることが比較検討する上で望ましいと思います。 ・結果は公開されるのでしょうか。
・ジェネリックスキルテスト	A	B	A	A	C	A	・ジェネリックスキルテスト試行結果の解析が待たれます。
・卒業生就職先アンケート調査	A	A	A	A	C	A	・卒業生の調査はアンケート結果が公表されており、具体的な改善に向けた資料になると思います。 ・シラバス等に記載されますか。
・看護技術経験表評価調査	A	B	A	A	A	A	・看護基本技術経験チェックリストの試行結果を踏まえた運用が待たれます。
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	C	A	
		A	A	A	A	A	・高い合格率を維持されています。 ・素晴らしいです。

\* 「卒業生就職先アンケート実施」「卒業生就職先評価調査」は「卒業生就職先アンケート調査」に統合

資料 4-5. 2019年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 5. 改善

中項目	総合 評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	評価	解釈
①	A	A	B	A	C	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	B	B	B	A	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
							C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	評価案	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	コメント	
・学科会議議事録	A		C	A	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料がないため、評価はできないが、学会会議議事録でよいと思います。</li> <li>PDCAの記載がない</li> </ul>	
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	A	A	C	A	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年報の活動概要より、3センターが発展的で活発な活動をされていることがわかります。</li> <li>PDCAの記載がない</li> <li>年報には記載されないのでしょうか。</li> </ul>	
・卒業生就職先評価調査	B	B	A	A	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施状況は把握できるが、結果の資料が限定的であると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議事録の公開がなくとも、キャリアサポートルームでの掲載だけで充分であると考えたため</li> </ul>
		A	A	A	C	A		
・学生・教員懇談会（学生支援生活センター年報）	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年総代、副総代を決め、学生と教員の連携を取られていると思います。懇談会への学生の参加者が少数のため、増加に向けた取組が必要であると思います。</li> </ul>	

\* 「3センター（看護学部看護実践研究センター、教育センター、学生生活支援センター）活動報告」を追加

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価  
2019年度 報告書

発行日 2020年3月25日

発行 大阪医科大学看護学部  
〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7-6

著・編集 看護学部カリキュラム評価委員会  
荒木孝治 仲下祐美子 原明子  
原口浩幸 橋本千恵子